

第26回 BELCA 賞決定

第26回BELCA賞については、同賞選考委員会による厳正な選考の結果、表彰建築物10件（ロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件）を次の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は平成29年5月22日(月)、ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1）にて開催する予定です。

ロングライフ部門においては、建築物の所有者・設計者・施工者・維持管理者が受賞者となり、ベストリフォーム部門においては、建築物の所有者・改修設計者・改修施工者が受賞者となります。

ロングライフ部門表彰建築物（順不同）

表彰建築物名	所在地 所有者	竣工年	用 途	
		設計者	施工者	維持管理者
1 石橋迎賓館	福岡県久留米市城南町17-1	1933年（2014年改修）	迎賓館	
	(株)永坂産業	松田建築事務所〔現 (株)松田平田設計〕（新築）、(株)松田平田設計（改修）	清水組〔現 清水建設(株)〕（新築）、大成建設(株)（改修）	(株)永坂産業
2 カトリック布池教会	愛知県名古屋市中区葵1-12-23	1961年	教会（聖堂）	
	宗教法人 カトリック名古屋教区	(株)山下寿郎設計事務所〔現 (株)山下設計〕	(株)竹中工務店	宗教法人 カトリック名古屋教区+畔柳武司
3 調布市総合体育館	東京都調布市深大寺北町2-1-65	1985年	体育館	
	東京都調布市	(株)久米設計	鹿島建設(株)、林建設(株)	公益社団法人 調布市体育協会
4 ヨックモック 青山本店	東京都港区南青山5-3-3	1978年（2016年改修）	物販店舗、飲食店舗、事務所	
	(株)ヨックモック ホールディングス	(株)現代計画研究所（新築）、大成建設(株)（改修）	大成建設(株)	(株)ヨックモック ホールディングス

ベストリフォーム部門表彰建築物（順不同）

表彰建築物名	所在地 所有者	竣工年	改修年	改修前用途	改修後用途
		改修設計者		改修施工者	
1 デザイン・クリエイティブセンター 神戸（KIITO）	兵庫県神戸市中央区小野浜町1	1927年（旧館）、1932年（新館）	2012年	研究所、事務所	美術館・博物館、集会場、事務所、物販店舗・飲食店舗
	神戸市	(株)佐藤総合計画		(株)大木工務店	
2 東京大学大講堂（安田講堂）	東京都文京区本郷七丁目3-1（東京大学構内）	1925年	2014年	学校（大学講堂）	学校（大学講堂）
	国立大学法人 東京大学	東京大学キャンパス計画室（千葉学）・同施設部、香山壽夫建築研究所		清水建設(株)、(株)関電工、日本装芸(株)	
3 長浜市庁舎	滋賀県長浜市八幡東町632	1986年	2014年	病院	市庁舎
	長浜市	(株)日本設計		(株)フジタ、(株)材光工務店	
4 日本生命保険相互会社本店（南館ビル）	大阪府大阪市中央区今橋3-6-12	1959年	2015年	事務所	事務所
	日本生命保険相互会社	(株)大林組、三機工業(株)		(株)大林組、三機工業(株)	
5 日本橋ダイヤビルディング	東京都中央区日本橋1-19-1	1930年	2014年	事務所・倉庫	事務所・倉庫
	三菱倉庫(株)	(株)三菱地所設計、(株)竹中工務店		(株)竹中工務店、(株)きんでん、(株)弘電社、高砂熟学工業(株)、斎久工業(株)	
6 米子市公会堂	鳥取県米子市角盤町2-61	1958年	2014年	公会堂	公会堂
	米子市	(株)日建設計、日建設計コンストラクション・マネジメント(株)、(株)桑本総合設計		(株)鴻池組、美保テクノス(株)、(株)平田組	

※受賞者名は今後変更されることがあります。

第26回 BELCA 賞の概要

- 目 的** 長期にわたって適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者を表彰することにより、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とします。
- 主 旨** ロングライフ部門では、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、長年にわたり適切に維持保全され、さらに今後相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている、模範的な建築物を表彰し、ベストリフォーム部門では社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って、蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされた、模範的な建築物を表彰します。
- 対 象** ロングライフ部門は、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、建設後30年以上にわたり適切に維持保全され、さらに、今後10年以上にわたって維持保全されることが計画されている建築物が対象となります。ベストリフォーム部門は、社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされ、リフォーム後1年以上かつ5年未満の建築物が対象となります。
- 選 考** 選考は、建築学界、建物所有、設計、建設、設備、メンテナンスといった多分野からなる「第26回 BELCA 賞選考委員会」（委員長：内田 祥哉 東京大学名誉教授）により行われました。
- 受賞件数** 今回を含め、ロングライフ部門116件、ベストリフォーム部門140件、合計256件が受賞しています。
- 次回募集** 第27回の募集は本年6月1日(木)より7月3日(月)17:30まで行う予定です。

第26回 BELCA 賞選考委員会（順不同・敬称略）

- 委 員 長 内田 祥哉（東京大学 名誉教授）
- 委員長代理 三井所清典（㈱アルセッド建築研究所 代表取締役、芝浦工業大学 名誉教授）
- 副 委 員 長 鎌田 元康（東京大学 名誉教授）
- 副 委 員 長 深尾 精一（首都大学東京 名誉教授）
- 委 員 枝川裕一郎（グローブシップ㈱ 常務取締役）
- 委 員 川島 克也（㈱日建設計 代表取締役副社長 設計部門統括）
- 委 員 小林 照雄（㈱大林組 執行役員 設計本部長）
- 委 員 菅 順二（㈱竹中工務店 常務執行役員 設計本部長）
- 委 員 中村 昌行（東京ガス都市開発㈱ 取締役 技術管理部長）
- 委 員 本多 武（東洋熱工業㈱ 取締役上席執行役員 生産管理本部長）
- 委 員 牧野 俊亮（㈱関電工 常務執行役員 戦略事業本部長 兼 営業統轄本部副本部長）
- 委 員 村山 寛（㈱アール・アイ・エー 東京支社 統括部長 兼 設計二部部長）

※ 各委員の役職は選考時のものです。

第26回 BELCA 賞選考総評

BELCA 賞選考委員会 委員長 内田 祥哉

BELCA 賞は、良好な建築ストックが、現代社会の中で生き生きと活用されることを目的に設けられた賞である。賞を2部門に分け、長年にわたり適切に維持保全され、今後も、永く維持保全される計画がある模範的な建築物をロングライフ部門、社会の変化に対応したリフォームにより、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門とし、平成3年から昨年まで、表彰件数は246件を数えている。

BELCA 賞への関心は、年々高まりつつあるが、現代社会の中で活用されるためには、ロングライフ部門でも設備の抜本的現代化が必要であり、ベストリフォーム部門では、建築寿命の長期化に伴い利用者達の建物への愛着を重んじる傾向が増している。そのため近年は、両部門の件数をあらかじめ定めずに、合わせて10件を選考することとしている。本年はロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件となった。

今回表彰されるロングライフ部門では、80年前の高級技術を細部まで保存した邸宅、半世紀を超える優れた維持管理で現在の技術水準に適合することが解った教会、公園の土に埋もれて見事に維持されている体育館、流行の先端を行く町並みを構成する建物のリフォームではないリハビリテーションが入選した。

また、ベストリフォーム部門では、解体の危機に面していた建物を全く新しい用途で再生した文化財的価値ある建物、材料にこだわらないで最新の技術により原設計を復原した安田講堂、改修建物を新築建物と一体化した市庁舎、御堂筋に並ぶ建物に一体感を造りだしたオフィスビル、江戸のウォーターフロントらしい歴史的建造物の増築と保存、外観も内観も当初のイメージを変えず性能を蘇らせたホールが入選した。

これらの建築物をみると、ロングライフ部門では竣工後40年に満たないものがあるのに対し、ベストリフォーム部門には90年を越えるものがあり、建築年齢上からも両部門を区別するのは難しいのが、現状である。

入選物件は何れも力作で、応募作品の水準が年ごとに高まって居ることは、昨年以上に感じられた。惜しくも選に漏れた建築物も多かったので、それらについては、更に充実した内容で、再度の応募を期待したい。

今回は新たに滋賀県と鳥取県からの受賞があり、BELCA 賞の周知の範囲は次第に広まってきたが、未だ受賞建築物を持たない地域が7県あり、建築物の維持保全技術の全国的普及を目指す賞の趣旨から、未受賞の地域からの応募も切に期待したい。

第26回 BELCA 賞ロングライフ部門選考評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 鎌田 元康

今回・第26回のBELCA賞の総応募件数は、部会制による選考を廃止し、ひとつの委員会にて両部門の選考を行うなどと選考規定を改定した2001年度・第11回以来の平均件数を1割ほど上回った。ただし、ロングライフ部門の表彰件数は、前回の7件から、第11回以来の平均件数とほぼ等しい4件に減少した。表彰に値するとして選定された建物の用途は、迎賓館、教会（聖堂）、総合体育館、複合用途建物（物販店舗・飲食店舗・事務所）と、きわめて多岐にわたる。

表彰案件4件は、①主要な部屋はすべて南向きとし、大きな開口部から冬は日光を取り入れ、夏は南北に風通しを良くするなど、環境に十分配慮した設計思想のもと、開口部に緻密なデザインと開閉操作上の工夫を施し、階段室の高窓などは遠隔操作で開閉可能とする、和室の片引き窓では、片引きしたあと外開き可能とし、窓の引き残しを感じさせないなど、現地審査を行なった委員全員を感動させ、また、改修工事に際し、“オリジナルの姿に戻すと共に、長期に使い続ける”とした基本方針が忠実に守られ、庭の手入れも見事であった、昭和初期に拓がり始めた和室と洋室が組み合わされた邸宅建築を迎賓館とした「石橋迎賓館」、②鉄骨鉄筋コンクリート造を主構造とし、大空間を有するにもかかわらず、Is値0.6以上で、特段の耐震補強が必要なく、常に信徒の方々の協力による適切な維持・管理が行われ、さらにはステンドグラスの増設による意匠面での改良、スロープとエレベーターと多目的トイレを納めた違和感のないエレベーター棟増築によるバリアフリー化などを行い、1961年の創建以来、2万組を超える結婚式が執り行われるなど、地元住民の親しみと憧れの対象となっている「カトリック布池教会」、③敷地が植物公園ということから課せられた厳しい高さ制限や建蔽率を逆手にとり、地中埋設建物とし、屋上を植栽で緑化、公園の中のおおらかな起伏の一部となるようデザインされ、地中埋設による冷暖房負荷の低減、自然採光、自然通風、熱源機器の排熱利用等、積極的な省エネルギーにチャレンジし、環境建築の先駆的な存在である1985年竣工の「調布市総合体育館」、④敷地が接する道路に面し、竣工後隣接して建つであろう建物形状・色彩を検討し、原設計で取り入れられたブルータイルの外壁、中庭を取り囲む建物の構成が、地域のランドマークとして認知されるに至った建物を、解体も考えられた中で使い続けることを決断し、見事な改修を行った「ヨックモック青山本店」であり、すべて『幸せな建築』そのものと言える。

ただ、①では、“今後一般社会への開放に、さらに積極的に取り組まれることを期待する”、②では、“無造作に設置された空調用屋外機器が気になる”、③では、“当初の設計コンセプトどおり運用されていないところが生じているようである”、④では、“局所段差や多目的トイレの不在など、バリアフリーに関する現在の基準から見て課題が残る部分がある”などの指摘があったことを記しておきたい。

第26回 BELCA 賞ベストリフォーム部門選考評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 深尾 精一

今回はBELCA賞としての表彰件数10件の中で、6件がベストリフォーム部門での表彰対象となった。昨年はロングライフ部門から多数選ばれたが、今回は、近年の傾向通りの結果となっている。当初の建築についてみると、戦前に建設されたものが3件、戦後のものが3件となっている。

東京大学大講堂は、今回の受賞作品の中では最も古い建築であるとともに、「安田講堂」として、広く社会に知られている建築である。東京大学の象徴であり続けてきた、典型的なロングライフの建築であるが、今回はベストリフォーム部門としての受賞となった。耐震化・バリアフリー化がリフォームの課題ではあったが、建築の扱われ方の激動の中で失われたものを創建時の意匠に戻すために、様々な技術が駆使されていることが高く評価された。しかし、主たる機能は維持されたリフォームである。

一方、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）はほぼ同時期に、生糸の輸出時の検査施設として、港町神戸に建設されたものである。その歴史的使命は終わっており、全国的に著名な建築であったわけではないが、神戸市にとっては歴史的建造物であり、解体の危機に合ったものを再生したものである。その存続を第一の目的とし、コストを抑えてあまり手を加えずに、様々な創造的活動の場となるようなコンバージョンが行われている。東京大学大講堂とは対照的なリフォームであるが、類似する建築の活用のためには、参考となる事例といえよう。

日本橋ダイヤビルディングも同時期に建設された、都市内の本格的な倉庫である。特徴的な外観意匠を残しつつも、高層ビルに生まれ変わらせるというプロジェクトは、それほど珍しいものではなくはなっているが、免震の仕組みの取り入れ方などに、従来のものとは異なる工夫がなされている。そうした中で、性能の高い都市型倉庫としてリフォームをしていることは、建築の歴史の継続という観点からも特筆すべきであろう。それを可能にした高度な設備改修やBCP対応なども、ベストリフォームと呼ぶのにふさわしい。

米子市公会堂は、村野藤吾による建築作品で、戦後の公共建築として高く評価されていたが、耐震性に大きな課題を抱えていたものである。特徴的な空間構成を変えずに耐震補強をすることは至難と思われたが、様々な技術的工夫により適切な解を得ている。飛躍的な価値向上がなされたわけではないが、この時期の建築の耐震改修が当初の建築作品としての価値を損ないがちな中で、市民にとっても望ましい形で成功したリフォームの事例と言えよう。

これに対し日本生命保険相互会社本店の南館ビルは、民間の建築として、所有者の強い意志によりなされたリフォームである。御堂筋という大阪の大切な景観に対して、より貢献しようとする公共性のある意志が感じられるところがポイントであろう。御堂筋に対して並ぶ本館の意匠との一体性が狙いとなっており、窓の配置の変更や外壁に用いた花崗岩の素材感などに心が配られている。オフィス機能の向上や設備の更新・BCP対応なども行われているが、主として街並み景観のためのベストリフォームとなっている。

以上の作品に比べ、長浜市庁舎はリフォーム対象となった建物も1986年竣工と比較的新しく、一体となって機能している建築は、新築部分の比率も大きいプロジェクトである。もともと市民病院として建設され、それを庁舎として活用していたものを、大胆なリフォームによって、新築としか見えない市庁舎の一部にしていることが画期的である。様々なリノベーションのための手法が駆使され、既存ストックの活用がなされている。

以上のように、今回の表彰対象は、当初の建築が高名な設計者によるものもあれば、特に建築作品としては注目されていなかった建物の利活用の事例もある。また、典型的な公共建築もあれば、純粋に民間のオフィスビルもあり、多様な結果となった。いずれも、リフォーム後の建築が、利用者に愛される建築であり続けるであろうと感じられるものである。